

美術科を学ぼう

1 美術科の学習の目標

□表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次の通り育成することを旨とする。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を養う。

* 表現の分野…美術に親しみ、感じたこと、考えたことを基にテーマを決める。目的、条件、美しさを考えて、色や形を生き生きと表現するように構想を練る。材料や用具の特性をいかし、主体的に表現する能力を身につける。

* 鑑賞の分野…美術作品に親しみ、よさや美しさを感じ取ったり、味わったりして、長く美術を愛好する心情と意欲を育てる。

2 各学年の目標

学年	項目	内容
1	A 表現	<ul style="list-style-type: none"> ・自然や身近なものを観察し、形や色彩の特徴や美しさなどをとらえてスケッチをすること。 ・多様な表現方法を工夫し、絵やイラストレーション、彫刻などに美しく表現すること。
	B 鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・美術作品や生徒作品の表現などに表された作者の心情や意図と表現の工夫を感じ取り、作品の見方を広げ、多様な表現のよさや美しさなどを味わい、鑑賞に親しむこと。 ・生活の中のデザインや伝統的な工芸を鑑賞する。
2 ・ 3	A 表現	<ul style="list-style-type: none"> ・対象を深く見つけ感じ取ったこと、考えたこと、想像や感情など心の世界をスケッチすること。 ・日本及び諸外国の作品の独特な表現形式や構成、技法などに関心を持ち自分の表現意図に合う新たな表現方法を研究するなどして創造的に表現すること。
	B 鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを理解する。・日本の美術や文化と伝統に対して継承と創造への関心を高める。・日本及び諸外国の美術の文化遺産を鑑賞し、国際理解を深める。・現代及び文化遺産としてのデザインの洗練された美しさなどを感じ取り、自己の美意識を高める。・美術作品や生活の中の造形に取り入れられている自然のよさや美しさを理解する。

3 指導計画

※授業時数等の関係で題材が変更になることがあります。

学期	1年	2年	3年
1	<ul style="list-style-type: none"> ・レタリング(デザイン) ・木工芸(工芸) 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs ポスター(デザイン) ・文字のデザイン(デザイン) 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞 ・スケッチ(絵画)
2	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土を描く(絵画) ・絵文字(デザイン) 	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土を描く(絵画) ・木彫(工芸) 	<ul style="list-style-type: none"> ・時の集積(立体・デザイン) ・郷土を描く(絵画)
3	<ul style="list-style-type: none"> ・スケッチ(絵画) ・鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> ・スケッチ(絵画) ・鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> ・篆刻制作(彫刻・工芸) ・パワー漢字(デザイン) ・鑑賞

4 美術の授業の受け方

(1) 授業では

- ・課題(テーマ)に応じた作品づくりを通して、思いを込めて楽しく表現活動を行い、人まねではないオンリーワンな納得のいく作品を完成させることが大切です。
- ・時間3分前には美術室に移動し着席し準備する。授業に必要な道具、材料類は忘れずに準備する。
- ・機材、工具類、用具、道具類、特に刃物類の取り扱いには十分注意し、正しく安全に使用する。
- ・活動後の片付けは協力して行い、借りた物の返却には責任を持ち、教室の衛生、美化に努める。
- ・プリント ワークシート類はしっかり整理、ファイルし、いつでも提出できるようにしておく。
- ・制作中は私語厳禁。落ち着いた雰囲気の中で集中して取り組めるようにみんなで協力する。
- ・ICT(タブレット等)は有効に活用し、使用上の約束や注意点などしっかり守って使用する。
- ・作品等の提出は必ず期限内に完成させて提出する。

(2) 家庭では

- ・美術作品、芸術作品などの本物、実物にふれる機会の第1位は美術館や展覧会の見学です。家族で各種展覧会に出かけ、本物に出会うことは大きな刺激となり、興味関心を呼び起こします。

また、インターネットでの検索、バーチャルでの体験なども手軽に興味深く楽しめます。動画やTVなどの芸術番組を視聴、図書館や書店などで手頃な画集で感想を語り合うのも良いと思います。まずは、タブレットを美術の世界への窓口として、身近なアートを楽しんでみてください。

- ・学校で調べた情報や資料を基に、自分自身が様々な角度から発想し工夫をして更なる表現や鑑賞する心を養いながら生活することを心がけましょう。
- ・必要な道具、材料を準備する。絵の具、彫刻刀、その他必要に応じて補充しておく。持ち帰った作品は大切に保管したり、飾ったり、使ったりして活かす。タブレットを活用し、次時の準備や制作に生かす。制作の進捗が遅れている場合は、指示を受けて家庭で進めてくる。

5 授業の用具など

- ・実技教科なので制作、作業が中心となります。体育着(ジャージ)に着替えて制作します。
- ・資料集と教科書を併用します。2・3年生は2・3の上下を2年間使います。1年生の時の教科書も合わせて持参し、3年間セットで使用できるように保管しておいてください。

- ・教科書
- ・資料集
- ・タブレット
- ・筆記用具
- ・ネームペン
- ・色鉛筆 12色以上
- ・定規、コンパス類
- ・のり(液体のり)
- ・はさみ
- ・絵の具(水彩絵の具・アクリルガッシュ絵の具など)

※美術科セットは、基本教室のロッカーに置いておきます。

※教材教具は学年によって、題材によって異なるので、その都度授業などで説明します。また、上記以外でも材料などで必要な物は随時連絡します。

6 美術の評価の観点及び評価・評定の方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 ・表現方法を創意工夫し、創造的に表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・「知識」は造形的な視点についての理解です。形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解できているか。また、全体のイメージや作風などで捉えることを理解できているかを評価します。 ・「技能」は、これまでと変わらず創造的に表す技能です。一人一人が発想や構想したことを基に、材料や用具などを生かし工夫するなどして創造的に表しているかを評価します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「思考・判断・表現」は、「A表現」の発想や構想を通して育成する力と、「B鑑賞」の鑑賞を通して育成する力で構成されます。発想や構想において、造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ることができているかを評価します。鑑賞において、造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたり深めたりすることができているかを評価します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びに向かう力、人間性等」について、“美術を愛好する心情”、“感性”、“心豊かな生活を創造していく態度”、“豊かな情操”は観点別評価に含められないため、ここでは評価しません。美術の創造活動の喜びを味わいながら、「知識・技能」や「思考・判断・表現」を身に付ける学習活動に主体的に取り組もうとする態度を評価します。

※3つの観点の評価は、次に示したものを中心に総括して行います。

- ①制作記録カードの毎時間の記入内容や活用、提出状況。
- ②授業(作品制作)での取り組み姿勢、パフォーマンス状況。
- ③作品制作の計画性、進捗や提出、用具や材料の準備状況。
- ④定期テストの実技試験、各種ワークシート、タブレットの活用状況。
- ⑤作品類。
- ⑥作品や鑑賞資料などに関するレポート類。

[評価] ・十分満足できる…A ・ほぼ満足できる…B ・努力を要する…C
 [評定] 3つの観点別評価を総括して5段階評定となります。
 ・十分満足できるものうち特に程度が高い…5 ・十分満足できる…4
 ・おおむね満足できる…3 ・努力を要する…2 ・一層の努力を要する…1